



英語のジョーク宅配便

Vol. 352 January 30, 2017

OUR MISSION STATEMENT

「人を知る最善の方法は、苦しい仕事を一緒にすることと、ジョークを言うこと」と言います。これを「英語で発信」というのが本紙の使命で、受動から能動への一歩です。「英語のジョークを楽しむ会」が活動領域をさらに広げようという試みです。地球の一体化が益々進む時代、「英語でジョークを」は、新しい意義を加えるでしょう。

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club=JLC) 代表・宮本倫好

- 本紙は、原則として、毎週月曜日に配信します。
- 執筆者は右の五名の本会会員です。相原悦夫、岡田茂富、新堂睦子、土屋政雄、豊田一男

□ ■ 本日のお届け品: バス停のブロンド女性二人



Two blondes wait at a bus stop.
A bus pulls up and opens the door.
One of the blondes leans inside and asks the driver,
"Will this bus take me to 5th Avenue?"

The bus driver says, "No, I'm sorry."

The other blonde leans inside and asks, "How about me?"

【和訳】

バス停で待っているのは、二人のブロンドの女性。バスが来て、入口のドアが開きます。一人のブロンドが車内に首をつっこんで、運転手にたずねます。「このバスに乗れば五番街に行けるかしら」バスの運転手、「行けませんね」こんどはもう一人のブロンドが首をつっこんで、たずねます。「私だったら、行ってもらえる？」

【笑いのツボ】

運転手の答えが「ああ、いいよ」だったら？！

- 担当は、岡田茂富でした。